

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-49412

(P2007-49412A)

(43) 公開日 平成19年2月22日(2007.2.22)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
HO4N 1/00 (2006.01)	HO4N 1/00 C	2C061
GO6F 3/12 (2006.01)	GO6F 3/12 Z	2C187
B41J 21/00 (2006.01)	B41J 21/00 Z	5B021
B41J 21/16 (2006.01)	B41J 21/16	5C062
HO4N 1/387 (2006.01)	HO4N 1/387	5C076
審査請求 未請求 請求項の数 12 O L (全 20 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号 特願2005-231480 (P2005-231480)

(22) 出願日 平成17年8月10日 (2005.8.10)

(71) 出願人 000001007

キヤノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(74) 代理人 100075292

弁理士 加藤 卓

(72) 発明者 三谷 恭隆

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キ

ヤノン株式会社内

Fターム(参考) 2C061 AP01 AP07 AQ04 AQ05 AQ06
HN10

2C187 AC08 AD14 AF03 AG02 BF19

BF41 BH18 CC08 CD07 DB30

DC06 FA01 GC09

5B021 AA30 CC00

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 画像処理装置および画像処理装置の制御方法

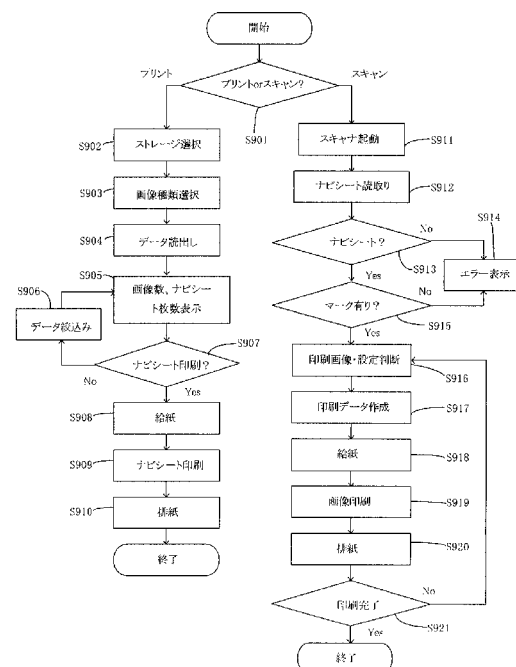
(57) 【要約】

【課題】 複数種類のデータに対応し、多種多様かつ大量のデータの印刷出力やデータ管理を容易かつ確実にこなえるようにする。

【解決手段】 画像印刷手段と、画像読取り手段、および複数種類のデータを保存できるストレージ手段を含む画像処理装置において、ユーザは印刷出力または管理処理を所望するストレージ手段中のデータの種別を指定し(S903)、データの種別に適合したマーク式シートを印刷させる(S904~S910)一方、読み取ったマーク式シートのマークの有無およびマーク位置に基づき(S916)マーク式シートに印刷されたデータの印刷出力または管理処理を制御する(S917~S920)。

【選択図】 図9

(図9)



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

画像印刷手段と、画像読取り手段、および複数種類のデータを保存できるストレージ手段を含む画像処理装置において、

前記データの印刷出力または管理処理を制御するためのマーク式シートを前記画像印刷手段により印刷し、前記画像読取り手段で読み取った前記マーク式シートのマークの有無およびマーク位置に基づき前記マーク式シートに印刷されたデータの印刷出力または管理処理を制御する制御手段と、

前記データの種類ごとに、前記データの種類の適合した当該種類のデータ用のマーク式シートを前記画像印刷手段により印刷させるためのユーザーインターフェース手段を有することを特徴とする画像処理装置。 10

【請求項 2】

前記ユーザーインターフェース手段により、前記データの種類の指定すると、この指定に応じて当該種類のデータ用のマーク式シートを印刷出力することを特徴とする請求項 1 に記載の画像処理装置。

【請求項 3】

前記ユーザーインターフェース手段により、前記データの種類の指定すると、この指定に応じて前記ストレージ手段中の当該種類のデータを検索して前記当該種類のデータ用のマーク式シートに印刷出力することを特徴とする請求項 1 に記載の画像処理装置。

【請求項 4】

前記データの種類の種類が、写真、フィルム、郵便書類、テキスト、Fax、名刺などのデータ内容、またはデータ生成に係るアプリケーションにより区別されることを特徴とする請求項 1 に記載の画像処理装置。 20

【請求項 5】

前記マーク式シートに印刷されたデータの管理処理には少なくとも前記マーク式シートに印刷されたデータの前記ストレージ手段からの削除処理を含むことを特徴とする請求項 1 に記載の画像処理装置。

【請求項 6】

前記マーク式シートは、前記データのサムネイル表現、またはテキスト表現の一覧表形式で印刷出力されることを特徴とする請求項 1 に記載の画像処理装置。 30

【請求項 7】

画像印刷手段と、画像読取り手段、および複数種類のデータを保存できるストレージ手段を含む画像処理装置の制御方法において、

前記データの印刷出力または管理処理を制御するためのマーク式シートを前記画像印刷手段により印刷し、前記画像読取り手段で読み取った前記マーク式シートのマークの有無およびマーク位置に基づき前記マーク式シートに印刷されたデータの印刷出力または管理処理を制御する制御過程と、

前記データの種類の種類ごとに、前記データの種類の適合した当該種類のデータ用のマーク式シートを前記画像印刷手段により印刷させるためのユーザーインターフェース過程を含むことを特徴とする画像処理装置の制御方法。 40

【請求項 8】

前記ユーザーインターフェース過程により、前記データの種類の指定すると、この指定に応じて当該種類のデータ用のマーク式シートを印刷出力することを特徴とする請求項 7 に記載の画像処理装置の制御方法。

【請求項 9】

前記ユーザーインターフェース過程により、前記データの種類の指定すると、この指定に応じて前記ストレージ手段中の当該種類のデータを検索して前記当該種類のデータ用のマーク式シートに印刷出力することを特徴とする請求項 7 に記載の画像処理装置の制御方法。

【請求項 10】

前記データの種類の種類が、写真、フィルム、郵便書類、テキスト、Fax、名刺などのデータ内容、またはデータ生成に係るアプリケーションにより区別されることを特徴とする請求項7に記載の画像処理装置の制御方法。

【請求項11】

前記マーク式シートに印刷されたデータの管理処理には少なくとも前記マーク式シートに印刷されたデータの前記ストレージ手段からの削除処理を含むことを特徴とする請求項7に記載の画像処理装置の制御方法。

【請求項12】

前記マーク式シートは、前記データのサムネイル表現、またはテキスト表現の一覧表形式で印刷出力されることを特徴とする請求項7に記載の画像処理装置の制御方法。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、画像印刷手段と、画像読取り手段、および複数種類のデータを保存できるストレージ手段を含む画像処理装置および画像処理装置の制御方法に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来より、プリンタ、複写機、ファクシミリ、あるいはさらにファクシミリ機能やメモ리카ードやHDD、DVD、MOなどを1つの筐体内に組み込んだマルチファンクションプリンタ(MFP:多機能プリンタ、複合画像処理装置、複合機などの呼び方もある)など、光学式のラインスキャナ等による画像読み取り部を有する装置で、マーク式シート(マーク(式)シート、ナビシート、オーダーシート、インデックスシート、サムネイルシートなど種々の呼び方があるが以下では「マーク式ナビシート」の呼称を用いる)を読み取らせ、印刷出力や画像データ処理を制御する技術が知られている(たとえば下記の特許文献1)。

20

【0003】

一般的に、マーク式ナビシートは、図7に示すように、A4程度の普通紙に印刷品位や部数または削除をマークする欄と、記憶装置内の画像を縮小(サムネイル)表示した欄を印刷したものである。そして、図8に示すように、このマーク式ナビシートにユーザがマークして、マークの有無およびマーク位置を読み取り部で読み取ることで、印刷装置内の画像データ(ファイル)の印刷や削除、管理を行なう技術である。

30

【特許文献1】特開2004-34584号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

現在、メモ리카ードスロットを備え、パソコンと接続することなくメモ리카ード内の写真画像の印刷を行なうことができるプリンタや、プリンタに備えられた外部機器接続端子とデジタルカメラを接続し、デジタルカメラ内のメモリに保存された写真画像データの印刷を行なう、いわゆる「フォトダイレクト印刷」機能を備えるプリンタが市販されているが、このような装置でも、マーク式ナビシートを利用することができる。

40

【0005】

たとえば、印刷部の印刷ヘッドを光学式のスキャナヘッドと交換できるような装置であれば、つまり、何らかの方法で画像読み取りが可能な装置であれば、印刷部が交換可能なプリンタにおいてメモ리카ード内の写真画像を印刷する際、図7のようなマーク式ナビシートを使用することができる。

【0006】

図7のように、マーク式ナビシートには、メモ리카ード内の写真画像をサムネイル形式で縮小印刷する他、印刷枚数や印刷品位を選択するためのマークボックスが印刷されている。ユーザーは印刷したい写真画像と枚数、印刷品位などを選択しマークする。次に印刷部をスキャナヘッドに交換してマーク式ナビシートを読み取り、マーク位置を検出し、マ

50

ークされた印刷枚数、印刷品位で選択された写真画像を写真印刷用の光沢紙などに本印刷する。

【0007】

マーク式ナビシートは近年、印刷部と読み取り部を有する複合画像処理装置、いわゆる複合機で実用化されている。たとえば、主に家庭用のインクジェット複合機では、パソコンを接続することなくコピー印刷や写真スキャン画像をメモリカードに保存したり、メモリカード内の写真画像データを印刷するような処理を行なえる必要があるが、マーク式ナビシートはこのような装置においてパソコンなどを用いることなく、比較的複雑な処理まで制御できるため、非常に有用である。

【0008】

また、インクジェット複合機などには、画像表示用の表示部を持たない装置、また、表示部があってもその表示面積が限られているものがある。このような装置をパソコンを介さずに使用する場合、メモリカードの中にどのような写真画像データが保存されているのかユーザが目視できないため、マーク式ナビシートは特に有用である。

【0009】

一方、近年、メモリカードの大容量化が進んでいること、外部接続できるリムーバブル（持ち運び可能な）HDD等が製品化されていることもあり、プリンタや、インクジェット複合機のような複合画像処理装置にこれらの大容量ストレージを接続、あるいは内蔵させた場合、画像データ数が数百、数千、数万と非常に多くなる。特に、この種の画像処理装置の記憶装置の大容量化がさらに進めば、外部装置、たとえばデジカメや持ち運び可能なストレージ、ファクシミリ等の複数の外部機器からも多種かつ大量のデータが導入されることになると考えられる。

【0010】

また、このようなケースでは、写真画像ばかりでなくテキストデータ、ハガキ画像データなど様々な種類の画像データをストレージに保存することが予想され、プリンタや、インクジェット複合機のような画像処理装置を用いてこれらのデータを簡単に印刷、管理する処理のニーズが高まっている。

【0011】

ところが、従来のマーク式ナビシートは、主に写真画像データの印刷制御や管理を主目的として構成されており、従来装置ではある1種類の画像（主に写真画像）に対する1形式しか用いることができなかった。

【0012】

すなわち、従来のマーク式ナビシートは複数種類のデータに対応しておらず、年賀状等のハガキ画像や事務書類や本などのテキスト、フィルム画像、名刺データなど多種かつ大量のデータを取り扱うことができないという問題があった。

【0013】

特にHDDや大容量メモリを備える複合機および複合システム、CD/DVD-ROMドライブやMOなどの外部機器と接続可能な複合機および複合システムにおいては、個人からビジネスまで使用目的が多様になるために保存、管理すべきデータは多種類になることが多い。そこで、これらの様々な種類のデータに適合した複数種のマーク式ナビシートを用いることができれば、非常に便利であると考えられる。

【0014】

本発明の課題は、上記の問題に鑑み、画像処理装置において、複数種類のデータに対応し、多種多様かつ大量のデータの印刷出力やデータ管理を容易かつ確実に行なえるようにすることにある。

【課題を解決するための手段】

【0015】

本発明は、上記課題を解決するために、画像印刷手段と、画像読取り手段、および複数種類のデータを保存できるストレージ手段を含む画像処理装置およびその制御方法において、前記データの印刷出力または管理処理を制御するためのマーク式シートを前記画像印

10

20

30

40

50

刷手段により印刷し、前記画像読取り手段で読み取った前記マーク式シートのマークの有無およびマーク位置に基づき前記マーク式シートに印刷されたデータの印刷出力または管理処理を制御するとともに、前記データの種類の種類ごとに、前記データの種類の種類に適合した当該種類のデータ用のマーク式シートを前記画像印刷手段により印刷させるためのユーザーインターフェースを設けた構成を採用した。

【発明の効果】

【0016】

以上の構成によれば、前記ユーザーインターフェースにより、ユーザは印刷出力ないし管理を目的とするストレージ手段中のデータの種類の種類に適合した当該種類のデータ用のマーク式シートを印刷させ、データの印刷出力ないし管理を制御することができ、複数種類のデータに対応し、多種多様かつ大量のデータの印刷出力やデータ管理を容易かつ確実にこなえる、という優れた効果がある。

10

【発明を実施するための最良の形態】

【0017】

以下、図面を参照して本発明の好適な実施例につき説明する。以下では、少なくともイメージスキャナとプリンタエンジンを含むマルチファンクションプリンタ（MFP）に関する実施例を示す。

【実施例1】

【0018】

図1は、本実施例に係るマルチファンクションプリンタ（MFP）101の外観構成を装置前方の斜め上から示したものである。図1のMFP101は、主にプリント部（プリンタエンジン）とスキャナ部（イメージスキャナ）で構成されている。このうち、プリント部はインクジェット式のシリアルプリンタ、スキャナ部はCCD読み取り方式のフラットヘッドスキャナである。プリント部（プリンタエンジン）とスキャナ部（イメージスキャナ）の細部の構成については後述する。

20

【0019】

MFP101右側の内部には、様々な画像データやアプリケーションを保存するためのHDD102が格納され、左側にはデジカメ等で使用されたメモリカードを読み書きするためのメモリカードスロット103が設置されている。複数種類のメモリカードに対応するため、本実施例では、メモリカードスロット103の開口は2種類ある。

30

【0020】

さらに、MFP101の右側には、デジカメやDVD/CD-ROMドライブ、リムーバブルHDD等の外部機器との接続を行なう外部機器接続端子104（たとえばUSBインターフェース）が設けられている。

【0021】

MFP101手前側の上面には、複数の操作ボタンにより操作する操作部105が設けられ、その中央にはMFPの状態を文字で表示するキャラクタタイプのLCD106が配置されている。

【0022】

図3は、操作部105を上方から示したものである。操作部105には、上記のLCD106に加え、以下のような操作手段（ボタン/キー）が設けられている。

40

【0023】

図3において、符号301はナビシートボタンで、後述のように、このナビシートボタン301を操作することにより、マーク式ナビシートの印刷/スキャン動作、その際の種類の選択などを制御するユーザーインターフェースを起動することができる。

【0024】

符号302はコピー動作、すなわちスキャナ部で読み取った画像データをプリント部で記録する処理を指定するためのコピーボタンである。

【0025】

符号303はスキャナ部の画像読み取り開始を指定するためのスキャンボタンである。

50

【 0 0 2 6 】

符号 3 0 4 は、画像データをプリント部で記録出力する処理を指定するための印刷ボタンである。

【 0 0 2 7 】

符号 3 0 5 は、方向操作ボタン（カーソルキー）で、LCD 1 0 6 で表示したメニュー項目を指定するためなどに用いられる。

【 0 0 2 8 】

符号 3 0 6 は、決定ボタンで、メニュー項目で選択した設定を確定するためなどに用いられる。

【 0 0 2 9 】

符号 3 0 7 は、リセットボタンで、ユーザがいったん設定したメニュー項目やモードを解除するために用いられる。

【 0 0 3 0 】

符号 3 0 8 はモノクロ用ボタン、符号 3 0 9 はカラー用ボタンでこれらのボタンはスキャンしないしプリントのモノクロ/カラーモードを指定するために用いられる。また、符号 3 1 0 はテンキーで、主に数値入力に用いられる。

【 0 0 3 1 】

上記のように、本実施例の MFP 1 0 1 は、プリント部とスキャン部、内蔵の HDD 1 0 2、メモリカードスロット 1 0 3、外部機器接続端子 1 0 4 を備えることで、PC と接続することなくスキャンデータをスロット 1 0 3 に装着されたメモリカード、内蔵の HDD 1 0 2、あるいは外部機器接続端子 1 0 4 に接続された外部機器などのストレージに保存することができ、また、これらストレージに保存されている画像データを直接印刷することができる。

【 0 0 3 2 】

ここで、MFP 1 0 1 のスキャナ部の構成について説明する。図 2 は、MFP 1 0 1 内のスキャナ部を上蓋 1 0 7 を開いた状態で上方から示している。スキャナ部はスキャナキャリッジ 2 0 1、スキャナキャリッジ 2 0 1 を支持するシャフト 2 0 2、ガラス 2 0 4、スキャナキャリッジ駆動モータ 2 0 5 により、フラットベッドスキャナとして構成されている。スキャナキャリッジ 2 0 1 は光源、ミラー、レンズ、CCD などの構成部材から成り、スキャナキャリッジ駆動モータ 2 0 5 の駆動力によりシャフト 2 0 2 上を移動し、原稿 2 0 3 の画像を光学的に読み取るようになっている。

【 0 0 3 3 】

画像をスキャンする場合は、MFP 1 0 1 の上蓋 1 0 7 を持ち上げ、スキャンする原稿 2 0 3 をスキャナのガラス 2 0 4 の上に配置し、上蓋 1 0 7 を閉め、図 3 の操作部 1 0 5 上のスキャンボタン 3 0 3 を押す。スキャンボタン 3 0 3 が押されると、スキャナキャリッジ 2 0 1 内の光源が点灯し、スキャナキャリッジ 2 0 1 がシャフト 2 0 2 を移動し、原稿 2 0 3 を照射し、その反射光を CCD で読み取る。このようにして光学的に読み取られた画像データは、所定の画像データ形式、たとえば JPEG 形式や PDF 形式で HDD 1 0 2 に自動的に保存される。

【 0 0 3 4 】

ある原稿をスキャナで読み取る際、原稿はスキャン部で大きさを検出され、原稿の大きさなど（あるいはOCRのような画像解析）に基づいて、画像の種類、たとえば名刺、写真、ハガキ、A 4（テキスト）、フィルム、などの種類が判断され、これらの画像データは種類を区別された上、HDD 1 0 2 内に保存される。たとえば、JPEG フォーマット、あるいはその拡張形式である Exif や DCF フォーマットによれば、いわゆるタグデータとして任意の情報を画像ファイル内に記録できるので、このようなフォーマットを用いて画像データそれ自体の内部に名刺、写真、ハガキ、A 4（テキスト）、フィルムなどの画像の種類を記録することができる。

【 0 0 3 5 】

次に、MFP 1 0 1 のプリント部について説明する。図 4 は MFP 1 0 1 内のプリント

10

20

30

40

50

部の構成を示している。プリント部は、図示のように、プリンタキャリッジ４０１、プリンタキャリッジ４０１下部のプリントヘッド４０２、インクタンク（４色：右から黒４０３、シアン４０４、マゼンタ４０５、イエロー４０６）、プリンタキャリッジ４０１を支持するシャフト４０７、印刷用紙４０８を送るための紙送りローラ４０９、印刷用紙４０８を支えるプラテン４１０、キャリッジおよび紙送り駆動用モータ（不図示）によって構成されている。

【００３６】

印刷出力動作においては、給紙部１０９の一番上の印刷用紙４０８を紙送りローラ４０９と駆動モータを使ってＵ字状に引き込み、印刷用紙４０８の先端がプリントヘッド４０２の下に到達すると同時にプリンタキャリッジ４０１は横方向に往復移動し、印刷用紙（ただし、材質は紙に限定されない）４０８にプリントヘッド４０２から微小なインク滴を吐出することで１ライン分の印刷を行なう。その後１ライン分印刷用紙４０８を送り、再びプリンタキャリッジ４０１が移動され印刷を行なう。上記動作の繰り返しにより印刷が終了すると、印刷用紙を排紙トレイ１０８上に排紙し印刷動作完了となる。

【００３７】

なお、ＭＦＰ１０１に内蔵されているＨＤＤ１０２（図１および後述の図５）は、１．８インチサイズ、記憶容量８０ＧＢ程度とし、メモリカード内のデータのバックアップ保存、外部接続された機器の画像データのバックアップ保存、スキャン時の画像データの保存などを行うことができる。ＨＤＤ１０２にはメモリカード等に保存されたＪＰＧ形式の写真データやスキャン時にＰＤＦ化されたＰＤＦ形式の画像（名刺、写真、フィルム、ハガキ、テキスト等）データやチェック式画像ナビシートのフォーマットやＭＦＰの動作に必要なアプリケーションが保存される。

【００３８】

図５に本実施例のＭＦＰ１０１の制御系の構成を示す。図５において、符号５０２はプリンタキャリッジ上のプリントヘッド５０１を電氣的に制御し、画像データに基づいてインクを吐出させるための駆動パルス生成する印刷ヘッド制御回路、５０３は画像を光学的に読み取るスキャナユニット、５０４はスキャナキャリッジ５０３を移動させるためのスキャナＣＲモータである。

【００３９】

符号５０５は、プリンタキャリッジを移動させるためのプリンタＣＲモータ、５０６は印刷媒体を搬送するための紙送りモータ、５０７はプリントヘッド５０１のノズル内のつまりなどを回復するポンプを駆動させるための回復動作モータである。

【００４０】

符号５０８はプリント部、スキャン部の動作をチェックするためのセンサ類、５０９は各種モータおよびセンサを制御管理する機構制御回路である。

【００４１】

符号５１０は後述する処理手順にしたがって各部の動作を全体的に制御するＣＰＵ５１１を含むＡＳＩＣ、５１２はそのＡＳＩＣ５１０が実行する処理手順に対応したプログラムを記憶したＲＯＭである。後述の処理手順は、たとえばこのＲＯＭ５１２に格納しておくことができる。

【００４２】

符号５１３はＡＳＩＣ５１０が処理手順を実行する過程でパラメータやスキャンデータを一時保存するためのエリアを有するＲＡＭ、５１４は装置電源オフ時にもプリントヘッド５０１の状態を保存するためのＥＥＰＲＯＭ等の不揮発性メモリ、５１５は画像データ、アプリケーションを保存する領域を有しているＨＤＤ、５１６はデジカメやＰＣなどの他の機器でも使用できる抜き差し可能なメモリカードである。

【００４３】

符号５１７は操作・表示部であり、電源の投入や、ホスト装置とのオンライン／オフラインの設定、ユーザーが所要の操作を行なうための操作ボタンや、操作状態、ＨＤＤ５１５やメモリカード５１６のファイル名などを表示できる表示器を有する。

10

20

30

40

50

【 0 0 4 4 】

インターフェイス 5 1 8 を介して接続されるホスト装置としての P C 5 1 9 は、M F P に対して画像データの入出力を行なうとともに、プリント、スキャンに係る画像等のデータの処理等を行なう。

【 0 0 4 5 】

また、外部装置 5 2 1 はデジタルカメラ、光ディスク等の外部機器であり、インターフェイス 5 2 0 を介して接続される。

【 0 0 4 6 】

次に、以上の構成における動作につき説明する。ここでは、H D D 1 0 2 内の異なる種類のデータ、特にここでは名刺、写真、フィルム、ハガキ、テキストなどの画像データをマーク式ナビシートを用いて印刷する方法について説明する。まず印刷したい画像のマーク式ナビシートを選択して印刷する。 10

【 0 0 4 7 】

図 3 の操作部 1 0 5 のナビシートボタン 3 0 1 を押すと、図 6 (a) のように、L C D 1 0 6 でマーク式ナビシートをプリントまたはスキャンのいずれの動作を行なうかを選択するメニュー画面を表示する。ここではマーク式ナビシートを印刷するので、方向操作ボタン 3 0 5 でプリントに矢印を位置させ決定ボタン 3 0 6 を押す。

【 0 0 4 8 】

これにより、L C D 1 0 6 で図 6 (b) の表示が行なわれ、ユーザに画像データを読み出すストレージの種類を選択させる。ユーザは、上記同様の操作により画像データを読み出すストレージの種類を選択し、決定する。図 6 (b) では、ユーザはストレージとして、たとえば H D D を選択し、決定ボタン 3 0 6 を押している。 20

【 0 0 4 9 】

次に図 6 (c) が表示され、印刷したい画像データの種類を選択する。本実施例では、印刷したい画像データの種類ごとにその画像データの種類に適したマーク式ナビシートを印刷出力させ、用いることができる。

【 0 0 5 0 】

図 6 (c) では、ユーザは写真用のマーク式ナビシートを選択しており、その後、図 6 (d) に示すように、指定されたストレージ内にある指定された種類の画像データの画像データ数と、マーク式ナビシートの枚数が表示される。なお、印刷するマーク式ナビシートの枚数は、1 枚がデフォルトであるが、図 6 (d) の段階で印刷するマーク式ナビシートの枚数を変更できるようにしておいてもよい。 30

【 0 0 5 1 】

この後、操作部 1 0 5 の決定ボタン 3 0 6 を押すとプリント部が動作し、図 7 に示す A 4 サイズ (普通紙) で写真用のマーク式ナビシートが印刷される。

【 0 0 5 2 】

図 7 にプリント部で印刷された写真用のマーク式ナビシート 7 0 1 を示す。図 7 のマーク式ナビシート (写真用) 7 0 1 は、印刷する用紙の大きさやフチの有無などを選択するための「 1 . 印刷設定」7 0 2、7 0 3 と、サムネイル状に印刷された画像と部数を選択するための「 2 . 画像と部数」7 0 4、7 0 5 の 2 種類のマーク欄が印刷されている。なお、図 7 のマーク式ナビシート (写真用) 7 0 1 は、背景技術の欄で説明した通り、従来のものと同じ写真用フォーマットのマーク式ナビシートである。 40

【 0 0 5 3 】

図 7 のマーク式ナビシート (写真用) 7 0 1 を印刷した後、ユーザはマーク欄 7 0 2 ~ 7 0 5 で、所望の用紙サイズ、フチ無し印刷などの印刷条件、印刷を所望する画像、部数に対応するマーク部を鉛筆などにより塗りつぶす。

【 0 0 5 4 】

図 8 は、ユーザがこのようなマーキングを行なった後のマーク式ナビシートの状態を例示している。「 1 . 印刷設定」のマーク欄 7 0 2、7 0 3 で印刷する画像の大きさ、ふちの有無を選択することができるが、図 8 では、用紙サイズ L 判、フチ有り印刷が選択され 50

ている。

【 0 0 5 5 】

また、「 2 . 画像と部数」のマーク欄 7 0 4、7 0 5 で画像と部数を選択するが、図 7、図 8 のマーク式ナビシート（写真用）7 0 1 では、H D D 1 0 2 内の全写真画像 7 0 4 が 2 3 枚サムネイル形式で表示されている。写真画像 7 0 4 下の 1、2、3 の数字が印刷枚数を選択するためのマーク欄 7 0 5 で、ユーザは図 8 のように写真画像 7 0 4 を見ながら印刷を所望する写真と部数を選択しマークを塗りつぶす。なお、印刷する必要がない写真は、その下のマーク部を塗りつぶさなければよい。また、写真画像データ数が 2 5 を越える場合は、それらの写真画像データを指定するため、次の用紙に 2 枚目のマーク式ナビシートを印刷出力する。

10

【 0 0 5 6 】

全てのマークが終わった後、ユーザはマーク式ナビシート（写真用）7 0 1 をスキャン部のガラス 2 0 4 に載せ、給紙部 1 0 9 に L 判の光沢紙を装填し、操作部 1 0 5 のナビシートボタン 3 0 1 を押す。

【 0 0 5 7 】

これにより L C D 1 0 6 に図 6（ a ）の表示が行なわれ、ユーザは矢印をスキャンに合わせ決定ボタン 3 0 6 を押す。その後、スキャナキャリッジ 2 0 1 が動作してマーク式ナビシート（写真用）7 0 1 の塗りつぶし位置を読み取り、関連付けられた画像データをマークした印刷設定、枚数を判断し、プリント部で本印刷が行われる。

【 0 0 5 8 】

以上のようにマーク式ナビシートを用いることで、ユーザは画像を表示する L C D やパソコンがなくても簡単にストレージ内の画像を見て、画像、印刷品位、部数を選択して本印刷を行なうことができる。

20

【 0 0 5 9 】

ここで、マーク式ナビシートのプリントおよびマーク式ナビシートによる印刷指定の処理手順を図 9 に示す。

【 0 0 6 0 】

マーク式ナビシートを扱う場合は、前述のようにプリント・スキャンに係らず操作部 1 0 5 のナビシート 3 0 1 を押す。ユーザはナビシートボタン 3 0 1 を押した後、操作部でマーク式ナビシートをプリントするのかスキャンするのかを選択する（ステップ S 9 0 1

30

：図 6（ a ））。

【 0 0 6 1 】

マーク式ナビシートのプリントの場合は、次に画像データを読み出すストレージ（H D D、メモリカード、外部機器）を選択する（S 9 0 2：図 6（ b ））。

【 0 0 6 2 】

続いて印刷したい画像の種類（写真、ハガキ、テキストなどの種類）を選択する（S 9 0 3：図 6（ c ））。これに応じて選択された画像データを選択されたストレージから読み出し（S 9 0 4）、この時キャラクタ L C D に印刷データ数と印刷されるマーク式ナビシート枚数を表示する（S 9 0 5：図 6（ d ））。

【 0 0 6 3 】

以上の表示結果を見て、ユーザは、マーク式ナビシートを印刷させるかどうかを判断する（S 9 0 7）。たとえば、マーク式ナビシートの枚数が多く、マーク式ナビシートの印刷をキャンセルしなければならない場合に備えて、撮影日、ファイル名等で画像データを絞り込み、マーク式ナビシートの印刷枚数を減らし、もう一度印刷枚数を確認し印刷するかどうかを判断できるようにしておく（S 9 0 6）。

40

【 0 0 6 4 】

ステップ S 9 0 7 でマーク式ナビシートの印刷を決定した場合は、プリント部が可動し A 4 紙を給紙し（S 9 0 8）、プリント部でマーク式ナビシートを印刷（S 9 0 9）、排紙（S 9 1 0）する。

【 0 0 6 5 】

50

一方、マーク式ナビシートのスキヤンの場合は、スキヤナユニットを起動させて（Ｓ９１１）、マーク式ナビシートを読み取る（Ｓ９１２）。読取ったスキヤンデータからセットされた用紙がナビシートであるか（Ｓ９１３）、またマークがされているか（Ｓ９１４）などを調べるにより適正なマーク式ナビシートを読み取ったか否か判定し、誤りがあった場合はキャラクタＬＣＤにエラー表示をする（Ｓ９１４）。

【００６６】

ステップＳ９１３、Ｓ９１４で誤りがなかった場合は、読み取ったスキヤンデータからマーク位置を割り出し印刷する画像、および印刷制御に関する設定を判断し（Ｓ９１６）、印刷データを生成する（Ｓ９１７）。その後、プリント部を起動し、生成した印刷データを印刷（給紙：Ｓ９１８、画像印刷：Ｓ９１９、排紙：Ｓ９２０）する。全ての画像の印刷が終わったら（Ｓ９２１）動作を終了する。

10

【００６７】

なお、マーク式ナビシートには、当該マーク式ナビシートの写真用、ハガキ用、テキスト用などの種別をバーコードなどを用いて印刷しておく構成とすれば、たとえばステップＳ９１３の判定処理や、ステップＳ９１６の印刷画像および印刷設定の検出処理、ステップＳ９１７の印刷データの生成処理などを容易かつ確実にこなせる。

【００６８】

次に、ＨＤＤ１０２内に保存されたハガキ画像データのためのハガキ用のマーク式ナビシートについて説明する。図１０および図１１はハガキ用のマーク式ナビシートの異なる構成例を示している。

20

【００６９】

図１０および図１１のハガキ用のマーク式ナビシートは、図９のステップＳ９０３（図６（ｃ）のユーザーインターフェース）により、画像データの種類として「ハガキ」を選択した際に、図９のステップＳ９０９で印刷されるものである。

【００７０】

本実施例のようにスキヤナ部を有するＭＦＰ１０１では、スキヤナ部で保存したいハガキの表、裏を読み込みハガキの画像データをＨＤＤ１０２等のストレージ内に保存することができる。読み込んだデータは、たとえばＰＤＦ形式（イメージ形式、あるいは読み取り時にＯＣＲが可能であれば文字認識された文字形式のいずれでもよい）で読み込みデータと共に保存される。また、もちろん、ＨＤＤ１０２等のストレージ内に保存するハガキ画像は、ＰＣのワードプロセッサソフトなどで作成したハガキの画像データ（あるいはテキストデータ）であってもよい。

30

【００７１】

このようにストレージ内にハガキ画像データを保存しておくことで、繰り返し利用（印刷）する際、再度宛名面を作成する必要がなくなる。

【００７２】

また、保存するハガキ画像が受信したハガキのものであるならば、その宛名面の文字部を文字認識（ＯＣＲ）して受取人と差出人を逆に印刷することで、パソコンなしで返送書を作成するような処理も可能である。たとえば、自分が受け取ったハガキを文字認識して、受取人と差出人情報（名前、住所、郵便番号、電話番号）を逆に配置して自動で返送書を作成するなどの印刷処理を行なうことができる（特開平８－１６４６５２号公報参照）。

40

【００７３】

さらに、ハガキ画像データを保存しておけば、ハガキの裏面の写真をＬ判など所望の判型で焼き増しすることもできる。

【００７４】

図１０は、上記のような印刷手法を考慮したハガキ用のマーク式ナビシート１００１の構成を例示している。通常印刷については、前述した写真用ナビシート同様に「１．印刷設定」のマーク欄１００２、１００３により用紙サイズと（ハガキ裏面の）フチ無し印刷について設定することができ、「２．画像と部数」のマーク欄１００４、１００５により

50

画像と部数を選択することができる。

【0075】

また、図10の例では、「1.印刷設定」に返送書マーク1006を設けてあり、この返送書マーク1006を塗りつぶすことで受け取ったハガキの返送書を作成することができる。すなわち、返送書マーク1006は、上記の受取人と差出人情報（名前、住所、郵便番号、電話番号）を逆に配置して自動で返送書を作成する印刷を指定するためのもので、この返送書マーク1006をマークした場合は、ストレージに保存したハガキ画像それ自体ではなく、そのハガキ画像に対する返送書を印刷する。

【0076】

また、図10の例では、「2.画像と部数」の欄に左側にハガキの宛名面と右側に裏面を配置したサムネイル画像1004が印刷されている。そして、その下部の枚数指定欄1005により、対応する画像部分の印刷枚数を指定することができる。

10

【0077】

図10のようにマークしたマーク式ナビシート（ハガキ用）1001をスキャン部で読み込ませることで目的にあったハガキを本印刷することができる。なお、返送書マーク1006はハガキの各サムネイル画像1004ごとにそのハガキの印刷方法を指定（ハガキ画像それ自体の印刷か、返送書の印刷かを指定）できるように印刷してもよい。また、図10の枚数指定欄1005は、表面は1部、裏面は3部まで指定できるようになっているが、この指定枚数の組合せは任意である。

【0078】

なお、図10に示したマーク式ナビシート（ハガキ用）1001は、A4用紙程度のサイズを想定しており、このために表示できるハガキ画像が9枚と少なく、文字や画像が小さい場合、文字部（郵便情報）が目視では読み取れないという可能性がある。そこでハガキ画像の数を増やし、郵便に必要な文字を確実に確認できるように、図11に示すようなハガキ用マーク式ナビシートの構成も考えられる。

20

【0079】

図11は、住所録形式のマーク式ナビシート（ハガキ用）1101の構成例を示している。図11のマーク式ナビシートは、「1.印刷設定」欄のマーク欄1102で用紙サイズ（ハガキ、封筒、A4×4など）を指定することができる。また、マーク欄1103で宛名書き印刷のための特殊文字（細、太、筆ペンなど）フォントを指定できる。また、図10と同様に返送書を印刷するための返送書マーク1106も設けられている。

30

【0080】

さらに、図11のマーク式ナビシートは、「2.宛先選択」の欄が、各ハガキ画像の差出人の名前1108、住所1109、（各ハガキの発着信、あるいはファイル作成日付データなどに基づく）年度1110のデータが住所録形式で表になっている。なお、この住所録形式の表の先頭のマーク欄1107は、そのデータに対応する印刷出力を行なうか否かを指定するためのマーク欄である。

【0081】

図11のマーク式ナビシートによれば、郵便情報を住所録形式としているので、ハガキデータを20名分表示することができ、郵便情報も容易に目視で確認することができる。なお、これらの住所録形式の文字データは、各ハガキ画像からOCRなどの処理により生成したものを自動登録するか、ユーザの手入力によって入力されたものを登録してもよい。

40

【0082】

図11のマーク式ナビシートによるマーキングでは、返送書の宛名面を作成する場合は、「1.印刷設定」のマーク欄1102、1103、1106により、印刷用紙サイズ、宛名書きフォント、返送書などのマーク指定を行ない、「2.宛先選択」の住所録先頭のマーク1107で返送書を送りたい相手を選択して、このナビシート1101をスキャン部で読み込ませることによって容易に宛名面を作成することができる。

【0083】

50

このように、ハガキ用のマーク式ナビシートは用途に応じてサムネイル式（図10の1001）、住所録式（図11の1101）を使い分けることができる。裏面の焼き増しにはサムネイル式（1001）、宛名面の作成には住所録式（1101）を使うと便利である。したがって、図10、図11のいずれの形式のナビシートも印刷できるようにしておき、ユーザが適当なメニュー画面でいずれの形式のナビシートを印刷するかを指定できるようにしておくといよい。

【0084】

次にテキスト用のマーク式ナビシートの構成例につき説明する。図12のマーク式ナビシートは、テキスト（テキスト画像）用のマーク式ナビシート1201を示している。

【0085】

図12（および図13）のテキスト用のマーク式ナビシートは、図9のステップS903（図6（c）のユーザーインターフェース）により、画像データの種別として「テキスト」を選択した際に、図9のステップS909で印刷されるものである。

【0086】

本実施例で想定しているテキスト画像データは、本、雑誌、事務書類等をスキャナ部で読み取りPDF形式（あるいはJPEGやTIFFなど他のイメージファイルフォーマット）でHDD102（などのストレージ）に保存した画像データである。

【0087】

HDD102内に保存されたテキスト画像データを印刷、あるいはさらに削除するために、図12のようなテキスト用のマーク式ナビシート1201を用いることができる。

【0088】

テキスト画像データは、複数ページに渡る場合が多く、図7、図10のようなサムネイル形式のマーク式ナビシートではファイルの区別がつけづらいため、図12のマーク式ナビシートでは、「4. テキスト選択」の項目では、タイトル1209、保存日時1210、ページ数1211を表形式で表示している。このうち、タイトル1209はテキスト画像データを文字認識した文頭やファイル名やユーザが手動入力した文字を表示するが、これらタイトル1209の文字列はPDFやJPEGなどのファイルフォーマットであればファイル内に埋め込み記録することができる。また、保存日時1210、ページ数1211はファイルの日付やファイルの書式データ部分などから抽出することができる。また、これらの表形式の表示の先頭には印刷／削除指定のためのマーク欄1208を付してある。

【0089】

さらに、「1. 印刷設定」の各項目では、用紙サイズのマーク欄1202に加え、印刷品位を指定するマーク欄1203、テキスト画像データを本印刷する用紙の向きを指定するマーク欄1204、2 in 1 や4 in 1 などの割付け印刷（詳細印刷）を指定するマーク欄1205が印刷されている。

【0090】

また、「2. 画像と部数」の項目では、印刷枚数指定のためのマーク欄1206が設けられている。

【0091】

さらに、「3. 削除」の項目では、当該のテキストファイルをHDD102から削除する処理を指定するためのマーク欄1207が設けられている。このマーク欄の使用法は図13で後述する。

【0092】

図12の例では、上記の各マーク欄を用いて、ユーザは、用紙はA4紙、印刷品位は速い、両面印刷、1ページ2枚（2 in 1）の各印刷条件を選択している。この状態のマーク式ナビシートをスキャンさせることにより、上記印刷設定で、マーク欄1208で指定した2つのテキスト画像データが本印刷される。

【0093】

図12のマーク式ナビシートは、図13のように用いることで、指定のテキストファイ

10

20

30

40

50

ルをHDD102から削除することができる。

【0094】

図13のテキスト用のマーク式ナビシートは、図12のものと同じ書式のものであるが、削除マーク1207と表一番下のテキストのマーク欄1208が塗りつぶされている。このようなマーキングにより、マーク欄1208を塗りつぶしたテキスト画像データをHDD102から削除する処理を指令することができる。

【0095】

図13の状態のマーク式ナビシートを読み込ませることにより、削除マークで選択したテキスト画像データをHDD102内から削除することができる。

【0096】

なお、図12および図13では、テキスト画像データを想定したが、図12および図13のマーク式ナビシートでは扱うテキストデータは必ずしも「画像」形式である必要はなく、生のテキスト形式のデータやワードプロセッサの文書データなどであってよい。

【0097】

さらに、テキスト画像データでもエクセルやワードなどアプリケーションの違いで元データを区別して、ワード用やエクセルデータ用のマーク式ナビシートなどアプリケーションごとに異なるテキスト用マーク式ナビシートを作成することもできる。

【0098】

また、当然ながら、図7のような写真用のマーク式ナビシート、図10のようなハガキ用のマーク式ナビシート、図12のようなテキスト用のマーク式ナビシートを印刷する、つまり、図6(c)のユーザーインターフェース(図9のステップS904)でこれらマーク式ナビシートに対応するデータ形式が指定された場合には、これらデータ形式を持つデータのみを列挙してマーク式ナビシートによる印刷をするが、このために必要なデータ形式の判定は、データ形式を示す識別情報がファイル中に埋め込まれている場合にはその情報を用いればよいし、また、HDD102中の各ファイルのデータ形式を集計したデータベースを用意してある場合にはその情報を利用できるし、また、このような情報が無い場合でも、ファイル先頭の数~数100バイト程度を読み出してファイル内容を同定する技術(たとえばUNIX(登録商標)のfile(1)コマンドが用いているような方式)は公知であるからこのような技術を利用してもよい。

【0099】

上記実施例によれば、印刷、あるいは特定処理すべきデータの種類の指定するユーザーインターフェースを設けておき、印刷、あるいは特定処理すべきデータの種類の指定すると、その種類の画像データに適したマーク式ナビシートを印刷出力し、そのマーク式ナビシートを用いて所望の印刷、あるいは特定処理(上記の例ではファイル削除)を行なうことができる。

【0100】

上記のような構成により、画像を表示できないような貧弱なユーザーインターフェース手段しか有していない複合機および複合システムなどにおいて、印刷、データ整理を容易に行なえる、という利点が得られる。

【0101】

なお、上記実施例では、印刷方式はインクジェットヘッドとしたが、本発明は印刷方式により限定される技術ではなく、他の電子写真方式やピエゾ方式、熱転写方式などのプリンタエンジンを用いる場合にも同等の構成を実施できるのはいうまでもない。

【0102】

また、本発明の画像データのおよび対応するマーク式ナビシートの種類は、写真画像、ハガキ、テキストに限らずフィルム、Fax、名刺、ハガキ以外の郵便書類など必要性和画像種類が認識できるものであれば制限はない。たとえば、図6(c)で示した名刺のデータに関しては、図10のハガキ用マーク式ナビシートの構成、あるいは図12のテキスト用マーク式ナビシートの構成などをいずれも利用可能と考えられ、いずれのナビシートのフォーマットを用いるかは当業者において任意に選択すればよい。もちろん、フィルム

10

20

30

40

50

の場合は、図 7 のような写真用のマーク式ナビシートの構成を流用できる。

【 0 1 0 3 】

F a x の場合は、図 1 0 のようなハガキ用マーク式ナビシートの構成により返信データを生成したりすることができる。また、F a x 機能が搭載されている複合機では、F a x の送信データまたは受信データで区別して、それぞれ異なるマーク式ナビシートを作成してもよい。

【 0 1 0 4 】

さらに、文字認識機能がある場合などは、ハガキデータを文字認識してハガキの中でも通常ハガキ、年賀状、見舞いハガキなどに区別して保存し、それぞれのマーク式ナビシートを作成してもよい。

10

【 0 1 0 5 】

また、画像の保存の際、画像データの種別を判断するのは、画像の大きさだけに限らず、画像の拡張子・アプリケーション、画像元データ（R G B データ）、文字認識による文字・文章、ユーザー設定がある。また、画像を保存するストレージは H D D に限らず D V D - R O M 、 C D - R O M 、 M O 、メモリカードなどでもよい。

【 0 1 0 6 】

また、本 M F P に接続される外部機器はデジカメに限らず、リムーバブルストレージ、F a x などでもよい。

【産業上の利用可能性】

【 0 1 0 7 】

本発明は印刷部、読み取り部、記憶部が一体となった複合機に限らず、別々の筐体に収容された印刷装置と外部装置、ストレージが相互接続される複合システムで適用してもよい。本発明を実施するソフトウェアは、本発明を実施する製品の R O M などにあらかじめ格納しておく他、ネットワーク経由でインストールしたり、アップグレードしたりできるように構成されていてもよい。

20

【図面の簡単な説明】

【 0 1 0 8 】

【図 1】本発明を採用したマルチファンクションプリンタの構成を示した説明図である。

【図 2】本発明を採用したマルチファンクションプリンタの読取り部の構成を示した説明図である。

30

【図 3】本発明を採用したマルチファンクションプリンタの操作部の構成を示した説明図である。

【図 4】本発明を採用したマルチファンクションプリンタのプリント部の構成を示した説明図である。

【図 5】本発明を採用したマルチファンクションプリンタの制御系の構成を示したブロック図である。

【図 6】本発明を採用したマルチファンクションプリンタの表示例を示した説明図である。

【図 7】本発明によるマーク式ナビシート（写真用）の構成を示した説明図である。

【図 8】本発明によるマーク式ナビシート（写真用）の構成を示した説明図である。

40

【図 9】本発明によるデータ処理手順を示したフローチャート図である。

【図 1 0】本発明によるマーク式ナビシート（ハガキ用、サムネイル形式）の構成を示した説明図である。

【図 1 1】本発明によるマーク式ナビシート（ハガキ用、住所録形式）の構成を示した説明図である。

【図 1 2】本発明によるマーク式ナビシート（テキスト用、印刷時）の構成を示した説明図である。

【図 1 3】本発明によるマーク式ナビシート（テキスト用、削除時）の構成を示した説明図である。

【符号の説明】

50

【 0 1 0 9 】

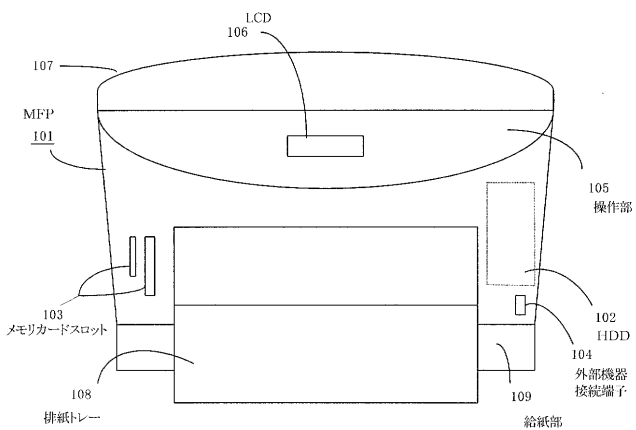
1 0 1	M F P (マルチファンクションプリンタ)	
1 0 2	H D D	
1 0 3	メモ리카ードスロット	
1 0 4	外部機器接続端子	
1 0 5	操作部	
1 0 6	L C D	
1 0 7	上蓋	
1 0 8	排紙トレイ	
1 0 9	給紙部	10
2 0 1	スキャナキャリッジ	
2 0 2	スキャナキャリッジ用シャフト	
2 0 3	原稿	
2 0 4	ガラス	
2 0 5	スキャナキャリッジ駆動モータ	
3 0 1	ナビシートボタン	
3 0 2	コピーボタン	
3 0 3	スキャンボタン	
3 0 4	印刷ボタン	
3 0 5	方向操作ボタン	20
3 0 6	決定ボタン	
3 0 7	リセットボタン	
3 0 8	モノクロ用ボタン	
3 0 9	カラー用ボタン	
3 1 0	テンキー	
4 0 1	プリンタキャリッジ	
4 0 2	プリントヘッド	
4 0 3	インクタンク (黒)	
4 0 4	インクタンク (シアン)	
4 0 5	インクタンク (マゼンタ)	30
4 0 6	インクタンク (イエロー)	
4 0 7	プリンタキャリッジ用シャフト	
4 0 8	印刷用紙	
4 0 9	紙送りローラ	
4 1 0	プラテン	
5 0 1	印刷ヘッド	
5 0 2	印刷ヘッド制御回路	
5 0 3	スキャナユニット	
5 0 4	スキャナキャリッジ用モータ	
5 0 5	プリンタキャリッジ用モータ	40
5 0 6	紙送りモータ	
5 0 7	回復モータ	
5 0 8	センサ類	
5 0 9	機構制御回路	
5 1 0	A S I C	
5 1 1	C P U	
5 1 2	R O M	
5 1 3	R A M	
5 1 4	E E P R O M	
5 1 5	H D D	50

- 5 1 6 メモリカード
- 5 1 7 操作・表示部
- 5 1 8、5 2 0 インターフェイス
- 5 1 9 ホスト装置（ＰＣ）
- 5 2 1 外部機器
- 7 0 1 マーク式ナビシート（写真用）
- 7 0 2 印刷設定
- 7 0 3 画像と部数
- 7 0 4 写真画像
- 1 0 0 1 マーク式ナビシート（ハガキ用 - サムネイル形式）
- 1 1 0 1 マーク式ナビシート（ハガキ用 - 住所録形式）
- 1 2 0 1 マーク式ナビシート（テキスト用）

10

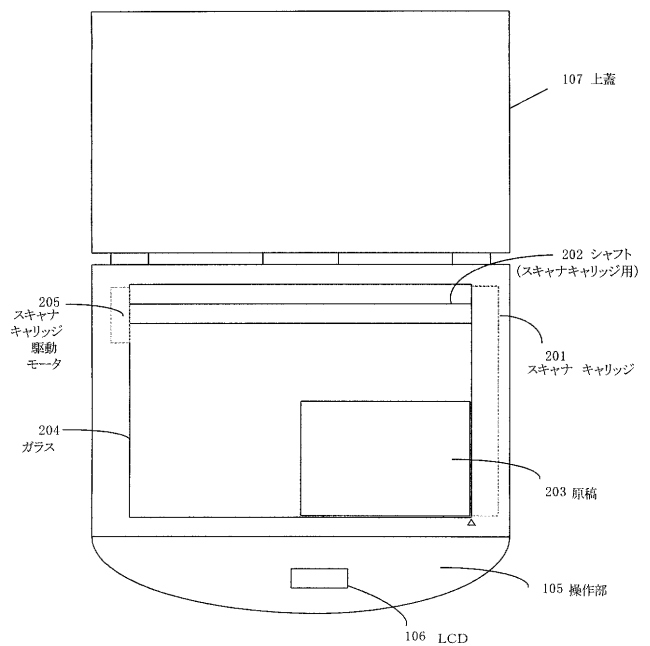
【図 1】

(図1)



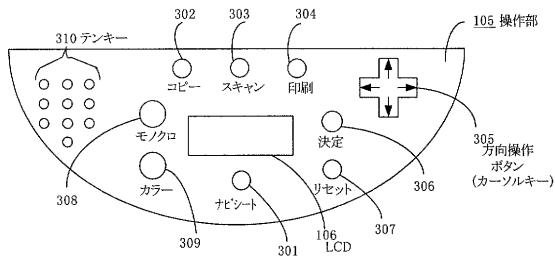
【図 2】

(図2)



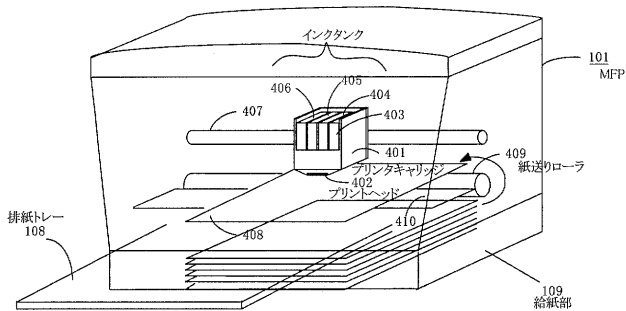
【図 3】

(図3)



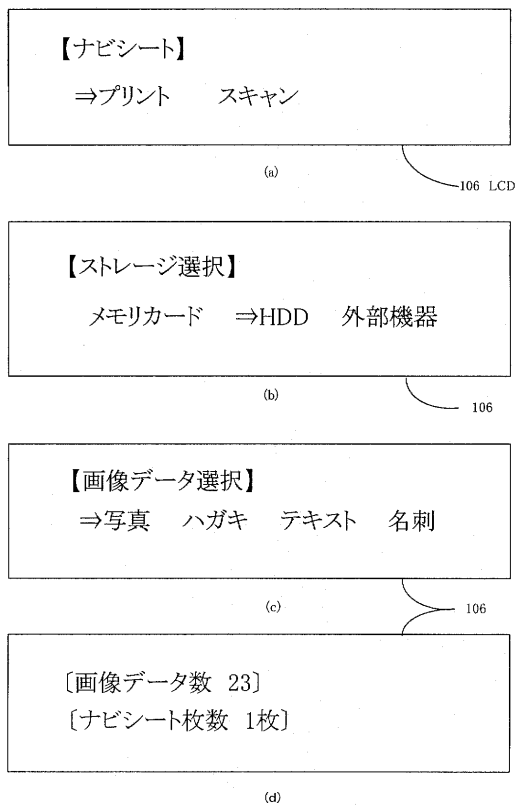
【図 4】

(図4)



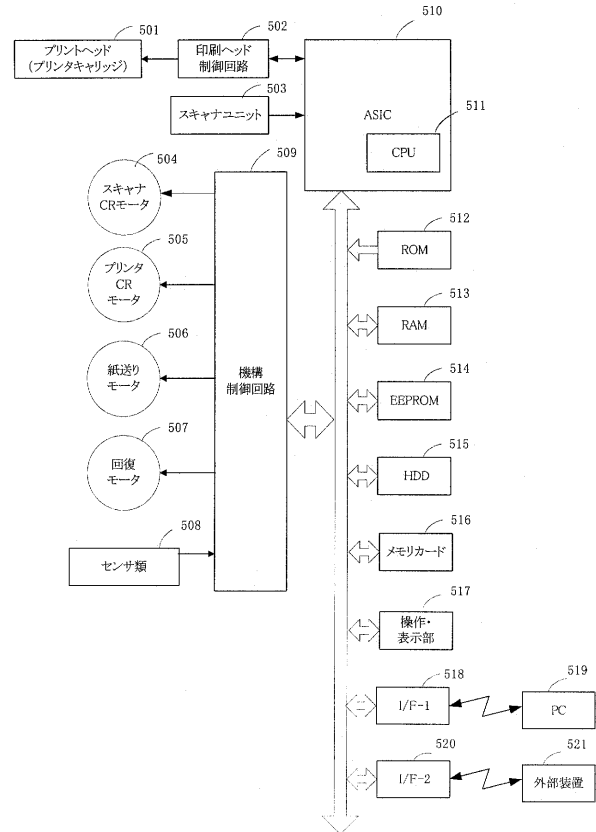
【図 6】

(図6)



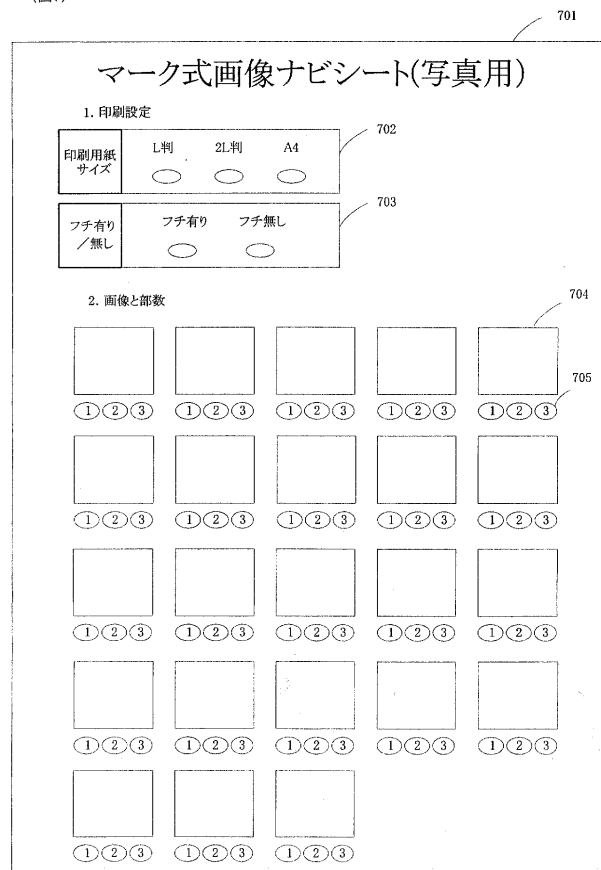
【図 5】

(図5)



【図 7】

(図7)



【図 8】

(図8)

マーク式画像ナビシート(写真用)

1. 印刷設定

印刷用紙サイズ: L判, 2L判, A4

フチ有り/無し: フチ有り, フチ無し

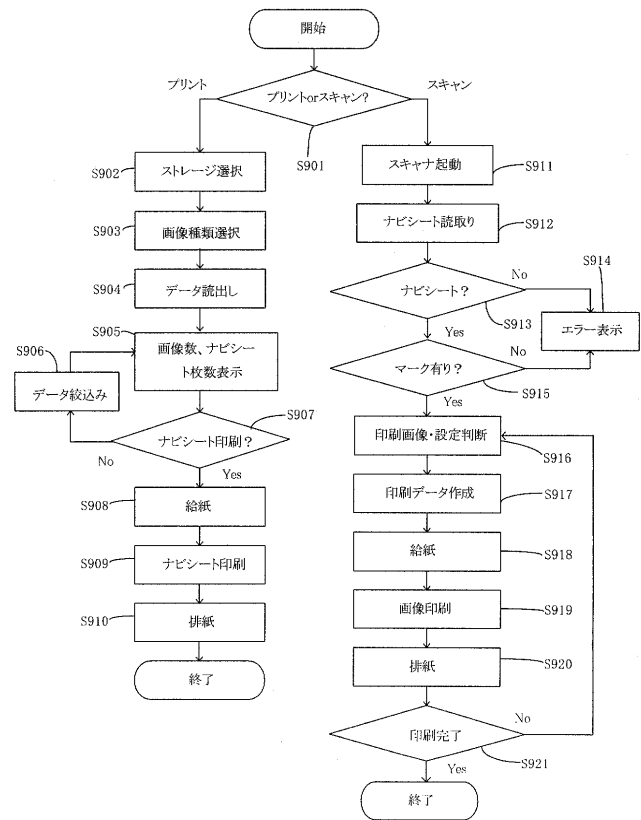
2. 画像と部数

701, 702, 703, 704, 705

① ② ③

【図 9】

(図9)



【図 10】

(図10)

マーク式画像ナビシート(ハガキ用)

1. 印刷設定

印刷用紙サイズ: L判, 2L判, A4×4, 封筒, ハガキ

フチ有り/無し: フチ有り, フチ無し

返送書: 返送書

2. 画像と部数

1001, 1002, 1003, 1004, 1005

① ② ③

【図 11】

(図11)

マーク式画像ナビシート(ハガキ用)

1. 印刷設定

印刷用紙サイズ: ハガキ, 封筒, A4×4

特殊文字: 細, 太い, 筆ペン

返送書: 返送書

2. 宛先選択

印刷	名前	住所	年度
●	〇〇 〇〇	東京都〇〇区〇〇町〇-〇〇-〇	2005
○	〇〇 〇〇	東京都〇〇区〇〇町〇-〇〇-〇	2005
●	〇〇 〇〇	〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇〇-〇	2005
○	〇〇 〇〇	〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇〇-〇	2005
●	〇〇 〇〇	〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇〇-〇	2005
○	〇〇 〇〇	〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇〇-〇	2005
●	〇〇 〇〇	東京都〇〇区〇〇町〇-〇〇-〇	2004
○	〇〇 〇〇	東京都〇〇区〇〇町〇-〇〇-〇	2004
●	〇〇 〇〇	〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇〇-〇	2004
○	〇〇 〇〇	〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇〇-〇	2004
●	〇〇 〇〇	〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇〇-〇	2004
○	〇〇 〇〇	〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇〇-〇	2004
●	〇〇 〇〇	〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇〇-〇	2003
○	〇〇 〇〇	大阪府〇〇区〇〇町〇-〇〇-〇	2003
●	〇〇 〇〇	〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇〇-〇	2003
○	〇〇 〇〇	〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇〇-〇	2003
●	〇〇 〇〇	〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇〇-〇	2003
○	〇〇 〇〇	〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇〇-〇	2003

1107, 1108, 1109, 1110

【図 12】

(図12)

マーク式画像ナビシート(テキスト用)

1. 印刷設定

印刷用紙サイズ: A4 ☒ B5 ☐ A5 ☐ ハガキ ☐ 用紙向き: 縦 ☐ 横 ☒

印刷品位: 速い ☒ 通常 ☐ きれい ☐ 詳細印刷: 両面 ☒ 1枚2ページ ☐ 1枚4ページ ☐

2. 画像と部数

印刷枚数: 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐

3. 削除

削除 ☐

4. テキスト選択

印刷/削除	タイトル	保存日時	ページ数
<input type="radio"/>	oooooooooooo	2005/01/01 14:00	20
<input type="radio"/>	oooooooooooo	2005/01/01 12:35	8
<input checked="" type="radio"/>	oooooooooooo	2004/12/31 18:05	5
<input type="radio"/>	oooooooooooo	2004/12/01 14:02	5
<input type="radio"/>	oooooooooooooooooooo	2004/12/01 14:01	1
<input type="radio"/>	oooooooooooo	2004/12/01 14:00	1
<input checked="" type="radio"/>	oooooooooooo	2004/11/15 9:30	26
<input type="radio"/>	oooooooooooo	2004/11/15 9:30	2
<input type="radio"/>	oooooooooooo	2004/11/14 20:03	1
<input type="radio"/>	oooooooooooo	2004/09/15 10:22	18
<input type="radio"/>	oooooooooooo	2004/09/01 13:48	15
<input type="radio"/>	oooooooooooooooooooo	2004/08/29 11:22	34

【図 13】

(図13)

マーク式画像ナビシート(テキスト用)

1. 印刷設定

印刷用紙サイズ: A4 ☐ B5 ☐ A5 ☐ ハガキ ☐ 印刷向き: 縦 ☐ 横 ☐

印刷品位: 速い ☐ 通常 ☐ きれい ☐ 詳細印刷: 両面 ☐ 1枚2ページ ☐ 1枚4ページ ☐

2. 画像と部数

印刷枚数: 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐

3. 削除

削除 ☒

4. テキスト選択

印刷/削除	タイトル	保存日時	ページ数
<input type="radio"/>	oooooooooooo	2005/01/01 14:00	20
<input type="radio"/>	oooooooooooo	2005/01/01 12:35	8
<input type="radio"/>	oooooooooooo	2004/12/31 18:05	5
<input type="radio"/>	oooooooooooo	2004/12/01 14:02	5
<input type="radio"/>	oooooooooooooooooooo	2004/12/01 14:01	1
<input type="radio"/>	oooooooooooo	2004/12/01 14:00	1
<input type="radio"/>	oooooooooooo	2004/11/15 9:30	26
<input type="radio"/>	oooooooooooo	2004/11/15 9:30	2
<input type="radio"/>	oooooooooooo	2004/11/14 20:03	1
<input type="radio"/>	oooooooooooo	2004/09/15 10:22	18
<input type="radio"/>	oooooooooooo	2004/09/01 13:48	15
<input checked="" type="radio"/>	oooooooooooooooooooo	2004/08/29 11:22	34

フロントページの続き

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 4 1 J 29/38 (2006.01)	B 4 1 J 29/38 Z	

F ターム(参考) 5C062 AA05 AB06 AB17 AB22 AB42 AC04 AC23 AC51 BA00
5C076 AA14 BA06